

第17回  日能研

文学コンクール



奨励賞

【論説文】 東京五輪を地球のレガシーに

田園調布学園高等部・二年

白井 彩葉乃さん

作品に対する思い・感想

この度は、このような素敵な賞を取らせて頂きありがとうございます。
いました。

今年は、コロナ禍で、オリンピックという異例な出来事でしたが、このような特別な時だからこそ、新しいことを考えることができるきっかけになりました。私の文章を見て、今後のオリンピックに関して、考えて頂けますと幸いです。

この夏、東京2020オリンピック/パラリンピックがついに開催された。日本勢は金メダル27個、メダル総数58個という史上最多記録の快進撃であった。私自身もサッカー、競泳、卓球、柔道、新競技のスケートボードなどの選手たちのパフォーマンスに圧倒され、「毎日今日は何の競技が開催されるのか」を調べてテレビの前で夢中になって応援した。

しかし夢中になる一方で、疑問やモヤモヤした気持ちが消えなかった。それはここに至るまでの3つの大きな負担があって本大会が開催されたことである。

1つ目は日本の経済的な負担だ。オリンピックの開催費用は約2兆円と言われる。東京都の年間予算規模が7~8兆円であることを考えると大きな額である。そして、度重なる変更に加えて、無観客になったことでさらに日本および東京の経済負担は極めて大きくなった。外国人の来日が大きく減ったことで打撃を受けた企業も多いと考える。

そもそも、このような大きな経済負担がないと開催できないことに疑問を感じる。商業化が行き過ぎた今のオリンピックは事実上大きな都市でないとは開催することはできないと言われている。確かにここ最近もまた今後も世界的な大都市ばかりが開催地になっている。

2つ目は開催都市の運営負担である。短期間にすべての競技を集中して行うには瞬間的な大きな運営パワーを作ることが必要とされる。そこに加えて今回は感染症対策の負担が加わってしまった。オリンピックによる感染爆発を避けることに多くの資金および労力負担が投入されたことは想像に難くない。この運営負担を背負うことも大都市偏重に拍車をかけることになる。今後も感染症対策が続くことも考えると開催地は大きな運営負担を覚悟の上でないとは手を挙げることはできない。

3つ目は環境負担である。今大会によってどれだけのCO2排出があったのだろうか。日本で最も暑い酷暑の時期に開催したことで、多くの冷房を使用したと考えられる。過密な運営の難しさからか、オリンピックの1ヶ月で13万食が廃棄された報道があった。廃棄率は25%と報じられる。世界では飢餓で苦しむ人が数多く存在する中で、今大会によって4人に1人の食事が捨てられたと考えると悲しい気持ちになる。

自国で開催された五輪を身近にみることで他国開催で見ていた輝かしいシーンだけでなく、影の部分を見ることができた。上記の3つの危機を乗り越えなければオリンピックの未来はないと強く感じた。

危機を乗り越えるために私は「分散型オリンピック」を提案したい。地域の分散、季節の分散という2つの分散である。

1つ目の地域の分散においては、現在のようにすべての競技を1つの都市で集中的に開催することを改め、競技ごとに様々な都市で開催することである。サッカーはローマ、陸上はチェンマイ、体操は奈良、などといった開催である。大量の人が集中的に集まる状況を避けることができる。現代の優れた中継技術により世界中に配信することで、直接観戦する人数は絞ると良い。それによって大きなスタジアムや試合会場がなくても開催できることになる。

2つ目は季節の分散だ。開催都市ごとに競技にとって最も良い季節を選択する。それにより選手のパフォーマンス向上が期待でき、好記録にもつながる。最適な季節に運営することは、CO2排出削減にも寄与する。そして何より、運営の負担が分散されることになるので、最小限の人数で運営できることになる。

このような2つの分散をすることで得られる最大の果実は、「小規模都市でも運営できること」になることだ。オリンピックは大都市の維持や衰退防止でなく、今後成長が見込まれる都市の起爆剤になってほしい。大都市での大規模な開催を義務づけられ、オリンピックで整備した会場が数年後に廃墟になる事例を聞いたが、それはあってはならない。小規模な開発でその都市のレガシーになるオリンピックであってほしい。

小規模都市でコンパクトに次々と開催されるオリンピックを想像するとワクワクする気持ちがある。小さい都市で温かい小さい開会式があればぜひ見てみたいと思う。まだ知られていないその都市の歴史や文化をぜひ理解していきたい。

季節もずれることで、長きにわたって楽しめることにもなる。ある1年ずっとオリンピックがあり続けることは嬉しく思う。

もし小規模都市で開催するのに資金が足りないようであれば世界中の市民からクラウドファンディングで募っても良い。企業のスポンサーがいなくても開催できるようになるかもしれない。

3年後に開催予定のパリでは、エッフェル塔の下でビーチバレー、エッフェル塔の前にあるシャン・ド・マルス広場に新設された仮設アリーナで柔道とレスリングなど都市全体が世界遺産指定されているパリ市内や郊外名所を有効活用し、各競技場にするらしい。分散型の大会の第一歩に感じた。

東京2020オリンピック/パラリンピックが契機になり、持続可能な分散型の大会に移行していくのであれば、私たちの国で開催されたことが地球にとって何よりのレガシーになる。未だ見ぬ都市で様々な競技が季節ごとに開催される未来のオリンピックがとても楽しみだ。